

## モササウルスの速報展を開催しています

モササウルスとは、恐竜が繁栄していたころ、海の中で生息していた大型の海生(かいせい)爬虫類(はちゅうるい)で、現在の生き物ではトカゲやヘビに近い仲間と考えられているものです。体長は10メートルを超えるようなものも知られており、海の王者とも呼ぶべき存在であったと推定されています。

平成18年に鳥屋城山においてモササウルスの化石が初めて発見され、平成22年から23年に発掘調査を行った結果、約7500万年前の海底で形成された地層から数多くの化石が採取されました。その後、化石の表面に付いている余分な石を取り除くクリーニング作業を進めてきた結果、頭から腹部にかけての骨格が極めて保存状態の良い状態で確認されました(図の赤色部分が確認された部位)。残念ながら尾部は失われていましたが、



海外から発見されている例と比較した結果、体長は6メートル程度であったと推定されています。

モササウルスの化石は、これまで国内で40例程が発見された例はなく、日本一のモササウルスの化石であり、世界的にも貴重な化石であることが改めて確認されました。

この度、クリーニング作業が完成に近づいたことから、地域交流センターALECにおいて、これまでの調査成果をお伝えする速報展を開催しています。この速報展では、細部まで精密に作り込まれた迫力のある生態復元模型や前足(ヒレ)の化石レプリカの展示を通して、最新情報を分かりやすく紹介しておりますので、ご来館の際はご観覧ください。

また、9月12日には、化石レプリカに直接触れることができる記念撮影会やモササウルス団扇を配布するPRイベントを開催いたしますので、ご参加ください。

## ●モササウルス速報展

会期／

9月5日(土)～10月4日(日)

会場／

地域交流センターALEC

PRイベント／

9月12日(土) 10時～14時

